令和４年度　地方創生推進交付金事業

１.市単独事業①

事業名	まちにコミットするローカルイノベーター創出事業【Ｒ元～Ｒ５年度】

事業内容

≪事業の全体像≫
　地域資源の活用と地域課題の解決をビジネスの手法で考えるローカルイノベーターを育成し、新たなビジネスやイノベーションを創出することで、外貨の獲得や地域経済の好循環につなげる。
　また、地方に関心のある都市圏在住者や大学生等を対象に本市のヒトやコトにフォーカスした情報発信や人材育成に取り組むことで、本市に関わりたい、暮らしたいと思う、新たな人の流れを生み、Ｕ・Ｉターンを促進させるほか、市街地活性化を中心とした移住・創業支援の取組みとの連携を図ることで、人口の社会減の抑制と街なかを中心とした市全体の賑わいを創出する。

≪Ｒ４年度事業内容≫
●たなべ未来創造塾（事業費 2,443,563円）
　持続可能な地域の形成を目指し、交流人口の増加と地域経済の活性化を図るため、地域課題の解決や地域資源の活用をビジネスの視点で考える「ローカルイノベーター」の育成とビジネスモデルの創出に取り組むほか、女性の創業を促す取組を展開する。また、全国的に広がっている姉妹塾同士での講師派遣やたなべ未来創造塾修了式での交流などを行うとともに、持続可能な運営に向け、中間支援組織となりうる人材を選考・育成していく。

●関係人口創出事業（事業費 11,000,000円）
　都市圏に暮らす20代～40代のローカル志向層や田辺市にゆかりのある者をターゲットとし、本市に活力をもたらすヒトやコトにフォーカスしたプロモーションを行う。プロモーションにおいては、前述のターゲットを購読者に抱える媒体を活用した情報発信を行うほか、関係人口養成講座を開催し、ローカルイノベーターがゲストスピーカーとして登壇する講座やプランづくりから行う現地実習を通じて、受講生自らが田辺市との繋がりを考えることで、受講生と本市の関係性を築き、本市への人の流れの創出につなげていく。

●市街地活性化施設活用事業（事業費 33,000,000円）
　市街地活性化施設（tanabe en+）の活用を促進するプランを構築し、その構築したプランに沿った、起業・創業をワンストップで支援できる相談窓口を設置し、各種補助制度の情報発信や、経営指導員による経営指導及び多様な人材の交流のマッチングサポートを行うなど、起業・創業の拠点としての取組と、起業・創業に関する各種セミナーや交流会の開催、市内の経済活性化を図るための地域産品プロモーションの展開、マルシェやワークスペースを活用したイベント実施に取り組むことで、市街地活性化施設があらゆる関係者を巻き込みながら、多様なヒト・モノ・カネ・情報が集積する街なかの「知的対流拠点」となる仕組みづくりを継続する。

≪参考（実績額）≫
事業費 46,443,563円（うち交付金充当額 19,759,646円）

本事業における重要業績評価指標（ＫＰＩ）

指標	区分	(基準値)H30	Ｒ元	Ｒ２	Ｒ３	Ｒ４	Ｒ５
本事業を通じた関係人口（本事業参加者のうち、自主的に本市を訪れた人数） ５年間で210人	計画値	0人	10人	20人	40人	60人	80人
	実績値		53人	36人	66人	106人	
本事業を通じた移住者数 ５年間で15人	計画値	0人	2人	3人	5人	2人	3人
	実績値		0人	8人	2人	0人	
本事業を通じた創業・第２次創業件数 ５年間で42件	計画値	0件	1件	8件	13件	10件	10件
	実績値		6件	9件	14件	22件	
たなべ未来創造塾受講者数 ５年間で92人	計画値	0人	12人	20人	20人	20人	20人
	実績値		12人	23人	22人	24人	

市単独事業②

事業名	多様なツーリズム推進事業【Ｒ４～Ｒ６年度】						
事業内容	≪事業の全体像≫ 　これまでの本市の観光施策は世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道（熊野古道）」を観光資源に、欧米豪をはじめとする外国人観光客を主なターゲットとしてプロモーションを展開、海外からは高い評価を獲得し、外国人観光客も年々増加していたが、一方で熊野古道を歩く国内観光客は少ない状況であった。また、コロナ禍により観光動向が変化しており、全国的に外国人観光客は激減しているとともに、国内外において自然体験やアウトドア等への関心が高まっている。 　さらに、市内には世界遺産熊野古道のほか、ひき岩群、護摩壇山、百間山など国立・国定公園や県立自然公園となっている自然豊かな登山スポットが点在しているものの、これらの観光資源は自然体験やアウトドア等の分野で活用できていなかった。登山やアウトドアに関心のある層をターゲットに活用を図り、「低山トラベル」という楽しみ方をテーマにすることで、差別化を図り、低山トラベルという旅のスタイルの普及を本市が先駆的に取り組むことで、本市のブランディングにつなげる。このような新たな需要を創造するとともに、多様なツーリズムの推進による新たな客層及び持続的な誘客へとつなげ、他の施策等とも連携させることで、市内観光の回復と地域経済の活性化を目指す。 ≪Ｒ４年度事業内容≫ ●低山トラベル推進事業（事業費 4,994,000円） 　「登山、アウトドア」の切り口で、「低山トラベル」をテーマに本市の多様な観光素材を活用し、地域経済の活性化及び持続可能な観光地づくりを推進するため、市内の登山に関わる観光素材の統一コンセプトを設定し、ブランディングすることで持続的な誘客に繋げる。また、２年目以降の継続した関わりを見据えて、参加者同士のコミュニティ構築を行い、継続した関わりを生みだすことで、持続的な交流人口と関係人口（予備軍含む）の発掘に繋げることで、移住・定住にも繋がる。 ≪参考（実績額）≫ 事業費 4,994,000円（うち交付金充当額 2,497,000円）	本事業における重要業績評価指標(KPI)					
	指標	区分	（基準値）Ｒ３	Ｒ４	Ｒ５	Ｒ６
	低山登山者数 Ｒ６年度に9,900人	計画値	6,400人	7,000人	8,300人	9,900人
		実績値		8,100人		
	ハイキング、キャンプ等の目的別観光客数 Ｒ６年度に291,500人	計画値	229,500人	241,000人	265,000人	291,500人
		実績値		290,623人		
	本事業でコンテンツ化した旅行商品の取り扱い件数 Ｒ６年度に80件	計画値	0件	0件	20件	80件
		実績値		0件		
	本事業を通じた関係人口及び関係人口予備軍 Ｒ６年度に55人	計画値	0人	15人	35人	55人
		実績値		7人		

２.広域連携事業①

事業名	持続可能な地域を創生する世界農業遺産活用戦略推進事業【Ｒ４～Ｒ６年度】						
事業内容	≪事業の全体像≫ 　みなべ、田辺地域では、新たな地域の創生戦略として、梅の生産過程等を踏まえた梅そのものの価値を再認識する中で、梅を核とした「農業システム」を世界に誇れる資源として、国連食糧農業機関（ＦＡＯ）に対し「世界農業遺産（ＧＩＡＨＳ）」への申請を行い、2015年12月15日に認定されたところである。本地域としては、世界農業遺産の認定を契機として、引き続き梅産業全般のグローバル展開を図るとともに、梅産業はもちろん地域の魅力・価値を再発見、再構築して、その魅力・価値を充分に理解して発信できる人材を育成してくことを通じて、梅（ＵＭＥ）産業のイノベーションを実現する。 ≪Ｒ４年度事業内容≫ ●みなべ・田辺地域世界農業遺産推進協議会負担金 　みなべ・田辺の梅システムの保全と活用を図るため、世界農業遺産保全計画（第２期）に基づく取組を行う。 １．グリーンツーリズム推進事業 　グリーンツーリズム事業メニュー構築のため地域観光関係部局等と連携し、研修会を実施する。 　地域の環境保全に関する里山管理、生物多様性の勉強会を実施し、グリーンツーリズム体験メニューを構築する。 ２．住民参画地域保全活動支援事業 　世界農業遺産「みなべ・田辺の梅システム」を理解し、発信できる人材「梅システムマイスター」を中心とした住民主導プロジェクトによる次世代育成活動支援。 　地域住民主体で実施する、梅システムの保全活用の取組に対して支援を行う。 　耕作放棄地にウバメガシ等のミツバチの蜜源樹植樹を行うことで、地域環境の保全を目指す。 ３．世界農業遺産調査・検討事業 　世界農業遺産の地域住民による保全活用の機運向上及び、地域課題の掘り起こし調査を行い活用する。 ４．梅と健康のＰＲ事業 　国内の消費者向けに、梅の健康への有用性をPRすることで新たな需要を掘り起こし、消費拡大を目指す。また世界農業遺産国内認定地域と共同で物産展等を開催することで、世界農業遺産の認知度向上と消費拡大を図る。 　地域内教育委員会と連携し、地域内小中学校等への梅の機能性ＰＲの実施。 　海外に向けて、JETRO連携事業として、欧米豪諸国にターゲットを絞った梅・梅加工品の海外市場販路開拓のため、梅＝健康をテーマに梅の有用性をＰＲすることで、新たな魅力を発信していく。 　世界農業遺産認定地域の先進地として、認定を目指す海外の研修生を受入れ地域の若者との交流の場を作る。 ≪参考（実績額）≫ 事業費 2,952,000円（うち交付金充当額 1,232,882円）						
		本事業における重要業績評価指標(KPI)					
		指標	区分	（基準値）Ｒ３	Ｒ４	Ｒ５	Ｒ６
		地域の魅力ある資源を発掘し発信することで、国内外からの人の流れ（宿泊客数） Ｒ６年度に417,113人	計画値	327,113人	357,113人	387,113人	417,113人
			実績値		428,369人		
		梅システムマイスターを中心とした、地域を主体とした取組を推進することで、年間の新規就農者の増加を目指す Ｒ６年度に36人	計画値	23人	27人	31人	36人
			実績値		20人		
		ミツバチによる生物多様性評価、重要性の周知、環境の整備により、ニホンミツバチの飼養数の増加を目指す Ｒ６年度に208群	計画値	88群	118群	148群	208群
			実績値		102群		
		梅干しの新たな魅力や地域の魅力を発信することで、梅干し離れに歯止めをかけ、年間一世帯当たりの梅干し購入量の増加を目指す Ｒ６年度に693ｇ	計画値	633ｇ	643ｇ	663ｇ	693ｇ
			実績値		650ｇ		

※本事業の評価検証については、「みなべ・田辺地域世界農業遺産推進協議会」において実施する。